

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 5 年 3 月 13 日

公表:令和 5 年 3 月 15 日

事業所名 リブレイン

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			
	2	職員の配置数は適切である	100%		人員配置以上の加配職員の配置をしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		非常勤職員も含め全職員が支援会議に極力出席できるようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12%	88%		今後第三者の外部評価の導入を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		非常勤職員にも研修の機会を設け、チーム全体でのスキルアップを図っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		相談員とも連携し情報共有しながら、計画を立てている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		毎月支援会議を開催し、チームで検討している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		毎月支援会議を開催し、チームで検討している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%		個々の特性に合った内容の課題をタイムスケジュールを組みながら適宜組み立てている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%		毎月支援会議を開催し、チームで検討し、児童発達支援管理者が計画を立てている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		翌日に振り替えることもあるが、毎回必ず行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		毎月記録確認をしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		毎月支援会議を開催し、チームで検討している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%		主に保護者様を介して体制を整えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%		保護者様からの聴取をもとに、連携による情報共有が必要な場合、訪問したり電話で聴取を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%		引継ぎが必要な支援内容がある事案には、書類等にて情報共有を図り、進路先で児が困らないよう支援している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%		非常勤職員にも研修の機会を設け、チーム全体でのスキルアップを図っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		100%	肢体不自由児が中心なため、転倒リスクがあり難しい。レクなどで外部に出かけたり、高校・大学生ボランティアとの交流機会を作るようにしている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%		子ども部会に在籍し、その活動へも積極的に参加するようにしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	100%		送迎時などに保護者様への困りごとがないか、問いかけるように心がけ、毎利用時に報告文で共通理解をもつようにしている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%		相談(面談)を定期的・臨時的にも要望や必要時に開催しており、また、保護者向けのセミナーを開催してペアレント・トレーニング等の支援を行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		改正などがある都度、保護者へ説明をしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		相談(面談)を定期的・臨時的にも要望や必要時にできるだけ早めに日程を調整して対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	38%	62%	父母の会は保護者様の役の負担がかかるため設置していないが、保護者向けセミナーを事業所主体で実施し、保護者様同士の交流の場を設けている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		要望の時点で迅速に対応するように努めている。苦情に至ることは、今のところまだない。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		リフレインたよりを年に4~6回程度発行し、毎利用時にお子様の様子や活動内容を画像でお伝えしている。
	35	個人情報に十分注意している	100%		セキュリティをかけたり、スタッフ間でも個人情報の漏えいに配慮するよう気を付けている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		気軽に利用日以外にも連絡が取り合えるように配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		100%	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%		新型コロナウイルスに対する知識をお便りでお伝えし、ホームページ上に感染対策を掲示したり、毎利用時前の案内メールでも啓発・体調確認を図っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			定期的な避難訓練と消防点検を職員と利用児童で年に2回5・9月に行っている。その他、地域と連携した災害対策を検討していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			権利擁護に関する研修に職員を参加させ、事業所内でも支援会議でフィードバックする機会を設けていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	88%	12%		身体拘束が必要なケースがまだない。しかし、グレーゾーンな場面など、虐待・身体拘束について職員間で考える、権利擁護委員会を設けている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%		食物アレルギーの同意書を保護者様に記入していただき、対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	88%	12%	事例を記録した文書を必ず職員間で熟読し、支援会議などで話し合う機会を設け、再発防止に努めている	